

事業を通して 喜びや幸せを分かち合いたい

株式会社

ハンドスタンド

住所：大川市大字道海島549

TEL：080-1171-118836

E-mail: vivo@hand-stand.net

URL: <http://www.handstand-vivo.net/>

代表取締役

岡清介さん

今月の夢追い人は、株式会社ハンドスタンドの岡清介さんにお話を伺いました。

ハンドスタンドは2017年に創業後、2018年に法人化されています。では会社では、どういった事業が行われているのでしょうか。

「もともと事業を始めるきっかけは、『VIVO』というアクロバットパフォーマンスチームを結成したことです。佐賀県にある神埼清明高校の男子新体操のOBを募って、九州各地の遊園地やショッピングセンター、お祭りなどで、アクロバットショーを行っています。イベントは週末を中心に開催していますので、平日は4歳から中学生を中心に体操教室を開いています。開設当初は、1クラスだけで始めましたが、今では15クラス、生徒は180名在籍しています。大川市や久留米市だけで

なく、県外である佐賀市などでも体育館などをお借りして体操を教えています」

アクロバットショーや体操教室など、体を動かす事業を行っている岡さん。なぜそういった事業を始めたのでしょうか。

「実は自身が新体操をしていたわけはありません。現在の事業を始める前は、キャラクターショーをやっているイベント会社に勤務していました。そこではイベント運営だけではなく、ショーに出演するスーツアクターもやっています。少しずつ体も動かなくなってきたので、脚本と演出を担当するようになった頃、神埼清明高校の男子新体操部出身者も在籍していました。その子はスーツアクターでしたが、びっくりするくらい身軽にくるくる回るんです。その

事が男子新体操を知るきっかけになりましたね。男子新体操の動画を見ると、技術や芸術性があるのすごく高いんです。だけど体操を好きでやっていた人も体操関連の仕事に就けるのはごくわずかなんですよね。『これだけの技術があるのになんかしてやれんかな』っていうのが、この事業をやるうと思っただけでした」

実際に事業を始めるにあたっては、商工会議所を多く利用されたとも話された岡さん。

「開業するにあたって、大川市で事業をされている方が『商工会議所』に入会して、自分自身が商工会議所に入会して、アドバイスがなければいけません。困ったことがあればいろいろ手助けしてくれるから」と教えていただきました。開業に

TikTok



Instagram



Twitter





体操教室の様子



『VIVO』によるショーの様子

関する知識はもちろんですが、これまでの自分の仕事の経歴と事業を話した際に、福岡よかとこビジネスプランコンテストに応募してみませんかと薦めてもらいました。アドバイスを頂きつつ応募した結果、見事入賞しました。今年も佐賀市ビジネスプランコンテストへ応募して、準優勝を受賞しました。応募するにあたって、改めて事業計画等を確立

できたので、とてもいい機会になりましたね」

事業に関して素晴らしい結果を残された岡さん。今回準優勝を受賞したビジネスプランは、どういったものなのでしょうか。

「現在15クラス行っている体操教室のなかで、1クラス中だいたい1名から4名ぐらい、発達に凹凸がある（障がいがある）お子さんがいらつしやいます。もちろん保護者さんから申告を受けますし、実際に通い出す前に必ず体験してもらいます。その体験のなかで、お子さんも楽しかった、保護者もここだったら安心、私たちもお子さんだったら指導できるということをお子さんが確認してから、教室へ通っていただくようにしています。始めの頃は、そのようなお子さんたちへのアプローチの仕方がわからなくて、言っても聞いてくれない、やって見せてもしてくれないといったことが続きました。それから様々な勉強をさせてもらって、多様なアプローチ方法を行い、段々伝わっていくようになってきました。例えば全く逆立ちができなかったお子さんが、支えはありますが、脚を上げて逆立ちが出来るようになったんです。支えがあるとはいえ、自分で逆立ちが出来るようにになったら、やっぱり自信がつくんですよ。

自信がついたからか、私達にも自分から『先生ー！』ってたくさんしゃべりかけてくれるようになったんです。そういう成長の瞬間に立ち会えることはこの仕事をしていくうえでの喜びでもありますし、そういった経験をしていくなかで、これが事業に活かせるのかなと思つたんです。

いまは発達に少し凹凸のある（障がいのある）お子さんの放課後の児童保育のような場所を、放課後等デイサービス※BRIDGEと名付けて、10月頃にはスタートできるように動いています。例えば、スポーツの目標は勝ち負けで目標を決めがちですが、体操ならいくらでも難易度を下げられますし、その子に合わせた目標が設定できます。前転できない子が前転できるようにするだけでも達成感があるし、極論を言えば技という技じゃなくてもいいと思うんです。それが出来たという達成感によって、子どもたちの自信につながる。挑戦することや目標達成を、体操を通して手助けが出来たらと考えています。教室へ通ってくる子どもたちにとっても、架け橋になれるよう、BRIDGEと名付けました。それからブリッジは体操の技の名前でもありますからね。実は会社名のハンドスタンドも逆立ちという意味で、ずっと仕事をし

ていたら、頭が固くガチガチになりがちだし、融通が利かなくなったりするところもあると思うんです。逆立ちをして、物事を柔らかく考えたいなという思いを体操の技に掛けて名付けた経緯があります。また、いまはショーに出演して動いているメンバーも、体が動かなくなってきたときには、今度は指導者としてBRIDGEに移れます。そういう意味でも架け橋になれるらしいなと思います」

体操を通して、たくさんの方の夢の架け橋になりたいと話された岡さん。では、そんな岡さんご自身の夢はなんでしょうか。

「実は事業を始める事となったアクロバットチームをつくるきっかけとなったのは、息子の一言からでした。私が脚本や演出を手掛けていた頃のショーを見て、自分もあいうふうになりたいと言つたんです。それならば！と思い、神埼清明高校に進学して、男子新体操部への入部を勧めました。そのことがきっかけで、神埼清明高校の男子新体操部の監督をはじめ、様々な方と出会い、チームを組むに至りました。きっかけをくれた息子もチームに所属していて、ある意味では、私の夢はひとつ叶っているようなものですね。それからイベント業をしてい

た経験もあり、私の目の前にいる一番のお客様は、やはり子供さんやそのご家族です。それぞれの得手不得手と向き合いながら、実際の手助けをしていくなかで、体操教室で関わった方全員と喜びを分かちあえていただければ嬉しいですね。それだけでなく、ショーを見てくださる皆さんや従業員、チームメンバーとも喜びや幸せを分かち合えたら、それが一番ですね。実はうちのチームメンバーが今年の8月からユニバーサル・スタジオリュバンのショーに参加しています。そういったショーが行っていると、自然とファンがついてくれることもあります。こういった経験を営業ツールとして使いつつ、VIVOというチーム自体がお客様を呼べるアクロバットチームになってくれたら嬉しいんです。また、今はこういった状況下なので、あまりVIVOを開催できない分、VIVOのキットパークというものを行っています。運動神経が良くなる基本動作のトレーニングを教えるというイベントですが、珍しいイベントでもありませんし、バク転も体験できるからか、特にオリンピックシーズンは大盛況でした。ご家族揃って体を動かしながら喜んでいただけるような事業を、これからも状況や時代の流れに則して行っていきます」

※放課後等デイサービス…児童福祉法に基づき、学校に就学している障がい児に対し、個別や集団プログラムを通じて日常生活での動作の習得や集団生活への適応に向けた支援をおこなう障がい福祉サービスの一つ。